

2010年10月26日(火)～開催 『空と宇宙展 -飛べ！100年の夢』展示情報  
**「はやぶさ」帰還カプセル、「イカロス」の“帆”、一般公開が決定！**

「空と宇宙展」広報事務局

2010年10月26日(火)から2011年2月6日(日)まで国立科学博物館(東京・上野)にて「空と宇宙展 -飛べ！100年の夢」が開催されます。本展の特別展示として「はやぶさ」の帰還カプセルを10月26日(火)から11月7日(日)の期間限定で展示します。また全期間で「イカロス」の帆の展示を実施することが決定しました。

**世界が感動した小惑星探査機「はやぶさ」の帰還カプセル、ついに国立科学博物館へ！**

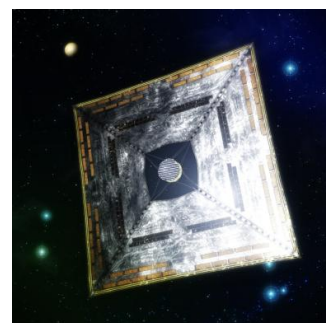
2010年6月13日、地球へ帰還した小惑星探査機「はやぶさ」。数々のトラブルを乗り越え、打ち上げから約7年の歳月をかけて約60億キロの太陽系空間の航行を果たした姿に、日本中が熱狂しました。地球に向けて射出し大気圏へ再突入した帰還カプセルは、無事に地表面に落下、回収されました。

本展では、相模原市立博物館などで公開され大反響を巻き起こしたこの帰還カプセルのうち現在公開可能なものを、会期初日から12日間限定で展示することが決定しました。今回展示されるのは、「インストゥルメントモジュール」「搭載電子機器部」「パラシュート」「エンジニアリングモデル(=写真)」の4点。その他の「はやぶさ」関連展示と併せて、7年間の深宇宙の旅の軌跡を追体験できます。



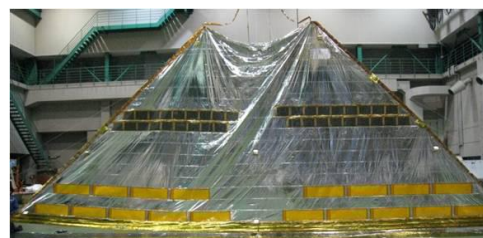
**世界初の“宇宙ヨット”「イカロス」の“一辺14メートルの帆”の展開展示が決定！**

小型ソーラー電力セイル実証機「イカロス」は、風を受けるヨットの帆のように太陽の光を大型の膜面(ソーラーセイル)に受けて推進力を得る、世界初の宇宙ヨット。「はやぶさ」の帰還に先立ち2010年5月21日(金)に金星探査機「あかつき」とともに打ち上げられ、宇宙空間で膜面を広げること成功し、金星に向かって順調に航行中です。イカロスの膜面は一辺14m(差し渡し20m)の正方形で、厚さはわずか0.0075mm(髪の毛の太さの1/10)のポリイミド樹脂。燃料の節約と電力の確保が重要となる深宇宙探査において、「イカロス」が実証するソーラー電力セイルは太陽光により



小型ソーラー電力セイル実証機「イカロス」

燃料なしで推進力を得るだけでなく、膜面の一部に貼り付けた大面積の薄膜太陽電池で十分な電力を得ます。薄膜太陽電池は宇宙太陽光発電の電池開発の先駆けであり、商業目的や地球環境保護目的においても利用が期待されています。膜面にはこのほか、光の反射特性を変えて姿勢を制御するための液晶デバイスや宇宙塵を観測するダストカウンターなど各種センサーを装備。まさに太陽系大航海時代の幕開けにふさわしい実証機です。



「イカロス」四角形膜面を4分割した1枚(オモテ・太陽面)

本展では、すでに世界初の快挙を多数成し遂げている「イカロス」の膜面のうち、4分割した1枚のバックアップモデルを、本展では全期間に渡って展示いたします。また、イカロスの展開機構の地上試験機も展示。宇宙の大海原をクルージング中の「イカロス」プロジェクトの全貌を覗くことで、宇宙へ夢を馳せることのできるまたとない機会です。

最先端の宇宙開発技術のみならず、航空100年の歴史を振り返る機会となる本展、ぜひご期待ください。

【報道・写真素材などに関するお問い合わせ】  
『空と宇宙展』広報事務局(共同PR) 担当: 畑田、斉藤  
TEL 03-3575-9823 / FAX 03-3574-0316  
E-mail: sora-uchupr@kyodo-pr.co.jp